



**PHILIPS**

Seminar

## 日本在宅医学会 第20回記念大会 ランチョンセミナー 11

# 小児在宅医療を支える医療技術 —小児の呼吸管理における排痰ケアの重要性

日 時：2018年4月30日(月・祝) 12:20～13:20

会 場：グランドプリンスホテル 新高輪 国際館パミール 2F 青葉 (第6会場)  
〒108-8612 東京都港区高輪3丁目13-1

座 長：平原 佐斗司 先生  
(東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所)

演 者：前田 浩利 先生  
(医療法人財団はるたか会 理事長)

参加方法 本セミナーへの事前参加予約を大会Webサイトにて承っております。  
ご予約いただいた方には、整理券を会場にてお渡しいたします。

**事前参加登録 URL** <http://www.20zaitaku.com>

※ 事前予約は満席となり次第、受付を終了いたします。※ セミナー開催日当日にも整理券を発行する予定です。  
※ 整理券は、セミナー開始後に無効となります。

共催  
日本在宅医学会 第20回記念大会  
フィリップス・レスピロニクス合同会社

# 日本在宅医学会 第20回記念大会 ランチョンセミナー 11

日時：2018年4月30日(月・祝) 12:20～13:20 会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 2F 青葉 (第6会場)

## 小児在宅医療を支える医療技術—小児の呼吸管理における排痰ケアの重要性

前田 浩利 医療法人財団はるたか会

「日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児」いわゆる医療的ケア児が、小児医療の進歩で急激に増加している。例えば在宅で人工呼吸器を必要とする19歳以下の子どもは平成17年には全国で260人だったが、平成27年には3000人を超え10倍以上になっている。これらの子どもたちを支えるためには、地域で支える医療技術が土台になる。状態が安定せず、入退院を繰り返していたり、生命の安全のために日常活動を大きく制限されている、家族の負担は大きくなり、生活は安定しない。呼吸の安定は、緊張や、嚥下、消化吸収など体調の安定と深くつながり、呼吸、緊張、嚥下・消化を一つながりで捉える必要がある。当院の約500人の小児在宅医療を受けている患者に対する日常業務のほぼ7割は、呼吸管理である。従来の小児医療における呼吸管理は、集中治療を基礎としてきた。呼吸窮迫症候群などの呼吸に問題のある重症な子どもに集中的に呼吸管理を行い、最終的には呼吸器を離脱させて退院にする、これが治療のイメージであった。従って、自宅に帰すに当たって、できるだけ医療機器が付いていない状態が良いという前提があった。しかし、一部の子どもには、人工呼吸器や在宅酸素を使った方が、安定する子どもも多い。医師が患者宅を訪問する在宅医療の体制が整備されれば、積極的に、医療機器を用いることで、入院回数を抑え、自宅で安定して過ごすことが可能になる。病院では、子どもたちを日常生活や家庭から遠ざけ、集中治療室に縛り付けておくものだった人工呼吸器などの医療機器が、在宅では安定した家庭生活を支えるものになるのである。この小児在宅医療を支える呼吸管理の中で排痰ケアはその中核にあると言っても良い。本講演では、そのような排痰ケアを中心に小児の在宅呼吸管理について述べる。

### 略歴 学歴

1989年3月 東京医科歯科大学医学部 卒業

### 職歴等

1989年5月 東京医科歯科大学医学部附属病院小児科研修医

1990年5月 武蔵野赤十字病院 研修医

1991年11月 東京医科歯科大学医学部附属病院 小児科

1994年4月 土浦協同病院 小児科医員

1999年6月 あおぞら診療所 設立

2004年11月 あおぞら診療所新松戸 開設

2011年4月 子ども在宅クリニック あおぞら診療所墨田開設

2013年2月 医療法人財団はるたか会 設立 理事長就任

## フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル

[www.philips.co.jp/healthcare/](http://www.philips.co.jp/healthcare/)

